

AIを活用する知恵…指示力の重要性

藤岡市立北中学校

二年 小峯 紗季

最近よくニュースで耳にする生成AI。私は、少年の主張を書かせてみたらどうなるんだろうと思いたち、ChatGPTと会話してみました。最初の指示として「中学生の思いや考えを発表する作文のテーマを考えて」という会話からスタートし、次に「今の社会問題は？」と聞くと、問題点として「子どもの貧困、環境問題、教育問題・・・」など、次々と出てきました。そこからさらにテーマを絞るため「中学生にとって身近で私達でも改善できるものは？」といったやり取りをします。最終的にたどりついたテーマは「勉強の効率化」というものでした。ものの十数分で、千文字程度の作文が中学二年生の文章レベルで完成しました。自分で考えるよりも圧倒的に速く、そしてテーマに忠実な作文ができました。ですが、この作文はAIが作ったもの。果たして、A

Iをこんなふうに使ってよいのでしょうか？作文をAIに書かせることについて他の人はどう思っているのか、インターネットで検索して調べてみました。

その結果、主に二つの体験談が見つかりました。一つ目は、男子中学生が夏休みの宿題の作文に取り組みために活用する事例でした。AIに作文を作ってもらったものの、他の生徒の告げ口によってAIに作文を書かせたことが先生に知られてしまい、学校からChatGPT使用禁止令が出たそうです。これに対して挙げられた意見には、「先生もChatGPTを使うことがあるだろうに、それを生徒たちだけに使わせないのは、どうなのだろう」や、「学校のガラパゴス化がますます深刻になるのでは」という声がありました。

二つ目は、小学六年生の子が作文の宿題を書くために、ChatGPTにAI家庭教師をしてもらったという事例です。小学校生活で一番心に残った思い出についての作文に行き詰まっているその子に「私はあなたをサポートするAI家庭教師です」と会話を始めたChatGPTは、「特に印象に残っている学校行事などはありません

すか」と、一つずつシンプルな質問を繰り返して、優しく誘導していきます。AI家庭教師の丁寧な声掛けにより、数分で具体的な思い出「六年生の音楽会でパイレーツ・オブ・カリビアンを弾いたこと」というエピソードを挙げることができました。この事例に対しては、「とても良いAIの使い方」、「こういう使い方ができないとこれから先、生きていけなさそう」など、参考にしたいという人が多くいました。

私は自分が体験した結果と調べてみた結果から、指示したことを正確にやり遂げることができる、また、その手助けもできるAIの有能さに驚きました。私はこの先、AIがなくなることはないだろうと考えます。そしてこれから先AIはより私達になくてはならないものになり、どんどん身近になってくるでしょう。そんな世の中でAIを使っていくためには、どのようなときに使えばよいのか、自分で考えてみるのが大切だと思います。幼い頃からAIに頼りすぎでは限られた発想しかできなくなってしまうし、かといってAIを使わなければ新しい可能性に気づくことができないかもしれません。そ

ここで私は、必要な知識や語彙力を身につけるために、小学生のときはAIを家庭教師として位置づけ、あくまでも自分で成長するという姿勢が大切だと思いました。そしてある程度、基礎的な力が備わってきた中学生や大人などは、AIをうまく活用して課題を解決する能力を身につけることが一番いい方法だと思います。

また私は、このようなAIが中心になる世の中で生きていくためには、私達がAIに何をしてもらいたいのか、正確に伝える能力が必要になってくると考えています。その、正確に伝える能力とは「指示する力」のことです。「指示する力」を磨けば磨くほど、これからの社会で生きていくうえで有利になっていくでしょう。そして「指示する力」を身に付けたとき、AIは私達の要望を完璧に叶えてくれる存在となる・・・かもしれません。最後になりますが、今回の私のスピーチのタイトルを覚えていますか？「AIを活用する知恵…指示力の重要性」というタイトルだったので、これは私が、ここまでに作成した文章を読み込ませて、AIにつけてもらったものです。